

ヘラルボニーと目指す！ 隔たりのない世界

「バリアフリー」という言葉を聞いて、皆さまは何を思い浮かべますか？ 階段横のスロープ、音声ガイド、多機能トイレなどでしょうか。こうしたハード面のバリアフリー化が広がる一方で、私たち一人一人の「心のバリアフリー」についてはどうでしょうか？」

さまざまな心身の特性や考え方を持つ全ての人々が、それぞれに輝ける社会を実現するためには、意識上のバリア（障壁）をフリーにする（なくす）必要があります。JALグループは、障がい・隔たりのない世界を目指す「ヘラルボニー」の理念に共感し、ヘラルボニーが展開するアート事業に空の旅を結び付けることで、障がいのイメージを変え、多様性を認め合える社会を共に目指しています。

ヘラルボニーは「異彩を、放て。」をミッションに掲げ、国内外の主知的障がいのある異彩作家と共に新しい文化をつくる企業です。ヘラルボニーとJALの初めての協業は、今から3年前に羽田空港で開催した廃材アート展でした。翌



「HERALBONY Art Prize 2024」でJAL賞を受賞した水上さん(中)。

年には青森県の三沢空港を舞台に、異彩作家たちの作品が空港の壁面や窓ガラス、階段、展望デッキなどを彩る大規模なアートラッピングを実施。これらのアートが放つ純粋な輝きに魅了された私たちは、次なるステップとして機内サービスにおける協業をスタートし、2023年8月から日本発国際線エコノミークラスの機内食のスリーブ（紙帯）に、今年1月からは国際線ファーストクラス・ビジネスクラスのアメニティのポーチに、個性溢れるアートを採用し

ています。また、羽田空港国際線のJALファーストクラスラウンジでは、異彩作家のアートを施した特製カップを用い、障がいのあるJALグループ社員が高い技術でコーヒーのハンドドリップを行うサービスも実現しました。

さらに今年9月、JALグループはヘラルボニーが主催する国際アートアワード「HERALBONY Art Prize (ヘラルボニー・アート・プライズ) 2024」に協賛し、社員投票による「JAL賞」を決定！ 受賞した水上詩楽さんの作品は、国内線・国際線の紙コップ（10月～11月の期間限定）および一部の国際線ビジネスクラスのアメニティとして機内に登場

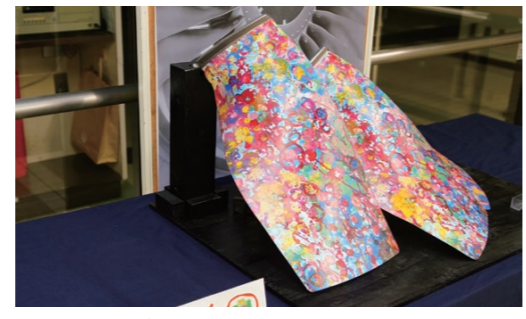
しました。機内販売などの新展開も予定していますので、ご期待ください。JALグループは今後も、誰もが輝ける社会の実現を目指し、空の旅を通じて新たな価値観や多様性に出会い・つながる機会を創出してまいります。

ヘラルボニーとJALの取り組みについて
スペシャル動画もぜひご覧ください。

今回のテーマに該当する目標



ヘラルボニーとJAL、コラボレーションの軌跡



記念すべきコラボレーション第1弾の廃材アート展「#HAIZAI ART 異彩と、廃材」を羽田空港で開催。



「#MISAWA ARTPORT ～三沢に放たれた異彩と、廃材～」青森県三沢空港の建物をアートラッピング。



国際線エコノミークラスの機内食のスリーブ（紙帯）に12種のアート作品を起用。



ヘラルボニーとJAL、業務提携を締結。写真は左から、ヘラルボニー代表の松田崇弥（たかや）氏と松田文登（ふみと）氏。



羽田のJAL SKY MUSEUMにアート作品を展示。ヘラルボニーとのコラボアイテム展示エリアも登場。



国際線ファーストクラス、ビジネスクラスのアメニティにアート作品を起用。ファーストクラスラウンジにて、コラボレーションカップでコーヒーを提供。



国際アートアワード「HERALBONY Art Prize 2024」に協賛。社員投票により水上さんの作品をJAL賞に選出。



国内線・国際線の機内サービスの紙コップが期間限定でヘラルボニーアートバージョンに。

2023.12

2024.1

2024.9

2024.10

2021.12

2022.1

2023.8

2023.10



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。